項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

15. 町 有 林 管 理 費

１．町有林管理事業

森林が有する多面的な機能を総合的かつ高度に発揮するために、森林の区域ごとに望ましい森林整備を実施しながら、森林の公益的機能発揮及び木材の安定的生産に向けて事業を推進している。

また、平成２７年度に十勝管内１７市町村、管内全１２森林組合など４９団体・個人の森林所有者で構成するとかち森林認証協議会に本町も参画し、国内認証「ＳＧＥＣ」の森林管理認証を取得。士幌町有林は１，８８２ha の森林認証を受けている。

区分	事業種	事業量	事業費(円)	補助金(円)
人工造林	準備地拵	11.76ha	5,940,000	－
		(7.42ha)	(3,652,000)	5,296,957
	植栽	7.36ha	2,365,000	
	苗木	13,911 本	2,138,400	
保育	下刈	18.42ha	4,576,000	2,698,643
	下刈	10.16ha	2,442,000	－
	保育間伐	9.21ha	2,288,000	1,403,824
	間伐	10.76ha	3,520,000	2,048,412
	野鼠防除	22.23ha	130,626	89,025
林内環境整備		－	1,125,300	－
造林面積等測量		－	423,500	－
森林作業道等整備		－	715,000	－
計		89.90ha	25,663,826	11,536,861

準備地拵の（　）は令和６年度事業

２．町有林立木等売払い

売払等種類	所在地等	本数・材積	金額(円)
立木	字士幌東 17 線 166-2 他	3,393 本・2,047.763 ㎥	7,260,000
間伐材	字下居辺	171.131 ㎥	935,000

３．学校林状況報告

小学校名	所在地	林小班	面積(ha)		林齢	森林の種類	樹種
			7年度末	6年度末			
中士幌	字中士幌 163-5	30-29	0.20	0.20	68	防風保安林	カラマツ
	小　計		0.20	0.20			
上居辺	字士幌 168-48 外	38-76	2.68	2.68	68	防風保安林	カラマツ
	小　計		2.68	2.68			
	合　計		2.88	2.88			

16. 公平委員会

１．公平委員会の開催状況

公平委員会は、職員からの求めにより、勤務条件の審査（措置請求）、不利益処分の審査、苦情処理等を審査する委員会で、令和７年度の開催はなかった。

<table>
<tr><th>項　　目</th><th>主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績</th></tr>
<tr><td></td><td>２．公平委員会委員
小坂委員が任期満了で退任し、新委員として河田委員を選任した。
<table>
<tr><th>職　名</th><th>氏　名</th><th>任　　期</th></tr>
<tr><td>委　員　長</td><td>井上　恵一</td><td>令和 4年 10月 1日～令和 8年 9月 30日（2期目）</td></tr>
<tr><td>委　　員</td><td>小坂　美幸</td><td>令和 4年 3月 29日～令和 8年 3月 28日（3期目）</td></tr>
<tr><td>委　　員</td><td>岡崎　睦子</td><td>令和 4年 10月 1日～令和 8年 9月 30日（2期目）</td></tr>
<tr><td>委　　員</td><td>河田　三紀</td><td>令和 8年 3月 29日～令和 12年 3月 28日（1期目）</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>17.企　画　費</td><td>１．広域行政
組織の効率化に向け検討が続けられた十勝圏複合事務組合と十勝環境複合事務組合の組織統合について、平成３０年４月１日に十勝圏複合事務組合に組織統合された。このほか、十勝圏複合事務組合としては、帯広高等看護学院、十勝教育研修センター、十勝市町村税滞納整理機構の事務の共同処理が行われた。
十勝定住自立圏は、圏域が連携して推進する内容を記載した第４期十勝定住自立圏共生ビジョン（令和７年度～令和１１年度）に基づき、「生活機能の強化に係る政策分野」など３分野で連携事業が実施された。

２．士幌町町民会議（町づくり総合計画）
町政に広く町民の意見を反映させるとともに、全町民参加による町づくりを進める機構として「士幌町町民会議」を組織している。
第６期町づくり総合計画（平成２８年度～令和７年度）の後期計画（令和３年度～）目標達成のための個別事業を定めた実施計画について協議を行った。
また、第６期町づくり総合計画が令和７年度で最終年度となることから、第７期町づくり総合計画（令和８年度～令和１７年度）を策定するため、町民会議内に５つの部会、庁内に策定委員会を設置し検討を行った。
１１月６日に計画案を諮問、１１月２５日の答申を受けて、令和７年第４回定例町議会に上程し、特別委員会での審議を経て令和８年第１回定例町議会において議決された。
（１）士幌町町民会議委員構成
任　期：令和４年１０月７日～令和７年１０月６日
議　長：吉　田　静　二
副議長：大　西　廉　子・西　潟　勝　幸
<table>
<tr><td colspan="4">士幌町町民会議委員（31人）</td></tr>
<tr><td colspan="4">地区公民館（13人）</td></tr>
<tr><td>中士幌地区公民館</td><td>長　屋　昌　徳</td><td>士幌南地区公民館</td><td>大　野　裕　一</td></tr>
<tr><td>上居辺地区公民館</td><td>石　水　裕　介</td><td>士幌北地区公民館</td><td>竹　迫　真　樹</td></tr>
<tr><td>佐倉地区公民館</td><td>多　田　秀　信</td><td>市街西町公民館</td><td>白　井　将　之</td></tr>
<tr><td>下居辺地区公民館</td><td>永　森　茂　之</td><td>市街中町公民館</td><td>浅　野　幸　子</td></tr>
<tr><td>中音更地区公民館</td><td>上　野　雅　美</td><td>市街南町公民館</td><td>田　中　幸　毅</td></tr>
<tr><td>西上地区公民館</td><td>遠　藤　哲　也</td><td>市街北町公民館</td><td>室　本　敏　行</td></tr>
<tr><td>新田地区公民館</td><td>西　潟　勝　幸</td><td></td><td></td></tr>
<tr><td colspan="4">関係機関団体（8人）</td></tr>
<tr><td>士幌町社会福祉協議会</td><td>大　野　　明</td><td>士幌町体育連盟</td><td>渡　邊　睦　実</td></tr>
<tr><td>士幌町農業協同組合</td><td>久　保　武　美</td><td>士幌地区連合会</td><td>経　種　英　介</td></tr>
<tr><td>士幌町農民協議会</td><td>河　村　康　弘</td><td>士幌町文化協会</td><td>篠　原　真　人</td></tr>
<tr><td>士幌町商工会</td><td>朝　井　宏　嗣</td><td>士幌町観光協会</td><td>三　浦　琢　磨</td></tr>
<tr><td colspan="4">老人代表（1人）</td></tr>
<tr><td>老人クラブ連合会</td><td>伊　藤　　博</td><td></td><td></td></tr>
</table></td></tr>
</table>

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

青年代表（3人）	
士幌町商工会青年部　大　林　祐　也 士幌町青年会　　兼　山　滉　都	士幌町農業協同組合青年部　山　内　良　介
女性代表（5人）	
士幌町女性団体連絡協議会　大　西　廉　子 〃　佐　藤　知　美 〃　多　辻　聖　美	士幌町女性団体連絡協議会　力　石　　香 〃　岡　崎　睦　子
公募及び学識経験者（1人）	
公募　岩　崎　量　示	

◆上居辺地区公民館　太田 氏（令和７年６月８日まで）
　石水 氏（令和７年６月９日から）
◆佐倉地区公民館　小野 氏（令和７年６月８日まで）
　多田 氏（令和７年６月９日から）
◆下居辺地区公民館　瀬口 氏（令和７年６月８日まで）
　永森 氏（令和７年６月９日から）
◆市街西町公民館　角田 氏（令和７年６月８日まで）
　白井 氏（令和７年６月９日から）
◆市街北町公民館　山中 氏（令和７年６月８日まで）
　室本 氏（令和７年６月９日から）
◆士幌町社会福祉協議会　岡田 氏（令和７年７月１５日まで）
　大野 氏（令和７年７月１６日から）
◆士幌町文化協会　吉田 氏（令和７年６月８日まで）
　篠原 氏（令和７年６月９日から）
◆士幌町農業協同組合青年部　香川 氏（令和７年６月８日まで）
　山内 氏（令和７年６月９日から）
◆士幌町青年会　矢野 氏（令和７年６月８日まで）
　兼山 氏（令和７年６月９日から）
◆士幌町女性団体連絡協議会　高橋 氏（令和７年６月８日まで）
　佐藤 氏（令和７年６月９日から）
　谷本 氏（令和７年６月８日まで）
　多辻 氏（令和７年６月９日から）
　栗原 氏（令和７年６月８日まで）
　力石 氏（令和７年６月９日から）

任　期：令和７年１０月７日～令和１１年１０月６日
議　長：大　西　廉　子
副議長：西　潟　勝　幸・篠　原　真　人

士幌町町民会議委員（30人）			
地区公民館（13人）			
中士幌地区公民館	大　岩　　卓	士幌南地区公民館	宇佐見　雄　二
上居辺地区公民館	石　水　裕　介	士幌北地区公民館	竹　迫　真　樹
佐倉地区公民館	文　屋　政　彦	市街西町公民館	白　井　将　之
下居辺地区公民館	永　森　茂　之	市街中町公民館	浅　野　幸　子
中音更地区公民館	鈴　木　智　巳	市街南町公民館	田　中　幸　毅
西上地区公民館	長谷川　龍　太	市街北町公民館	室　本　敏　行
新田地区公民館	西　潟　勝　幸		

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

関係機関団体（8 人）			
士幌町社会福祉協議会	大　野　　明	士幌町体育連盟	渡　邊　睦　実
士幌町農業協同組合	久　保　武　美	士幌地区連合会	経　種　英　介
士幌町農民協議会	河　村　康　弘	士幌町文化協会	篠　原　真　人
士幌町商工会	朝　井　宏　嗣	士幌町観光協会	三　浦　琢　磨
老人代表（1人）			
老人クラブ連合会	伊　藤　　博		
青年代表（3人）			
士幌町商工会青年部	大　林　祐　也	士幌町農業協同組合青年部	山　内　良　介
士幌町青年会	兼　山　滉　都		
女性代表（5人）			
士幌町女性団体連絡協議会	大　西　廉　子	士幌町女性団体連絡協議会	力　石　　香
〃	佐　藤　知　美	〃	岡　崎　睦　子
〃	多　辻　聖　美		

（2）部会構成

部会名	氏　名	
総　　務	多　田　秀　信 上　野　雅　美 大　野　裕　一	竹　迫　真　樹 大　西　廉　子
住民福祉	長　屋　昌　徳 西　潟　勝　幸 岡　田　智　明 (大　野　　明)	伊　藤　　博 山　内　良　介 佐　藤　知　美 力　石　　香
経　　済	遠　藤　哲　也 久　保　武　美 河　村　康　弘 朝　井　宏　嗣	経　種　英　介 三　浦　琢　磨 岡　崎　睦　子
生活環境	石　水　裕　介 永　森　茂　之 浅　野　幸　子 室　本　敏　行	大　林　祐　也 多　辻　聖　美 岩　崎　量　示
教　　育	白　井　将　之 田　中　幸　毅 渡　邊　睦　実	篠　原　真　人 兼　山　滉　都

（3）第７期町づくり総合計画策定経過

年月日	内　容
令和7年 6月 2日	第1回町づくり総合計画策定委員会
6月 6日	議会全員協議会
6月 9日	第1回町民会議
6月30日	第1回町民会議 幹事会（書面開催）
7月16日	第1回町民会議 住民福祉部会
7月16日	第1回町民会議 教育部会
7月17日	第1回町民会議 経済部会
7月22日	第1回町民会議 生活環境部会
7月29日	第1回町民会議 総務部会
10月 1日	第2回町づくり総合計画策定委員会
10月14日	第2回町民会議 総務部会（書面開催）
10月14日	第2回町民会議 住民福祉部会（書面開催）
10月14日	第2回町民会議 経済部会（書面開催）
10月14日	第2回町民会議 生活環境部会（書面開催）
10月14日	第2回町民会議 教育部会（書面開催）
10月31日	第3回町づくり総合計画策定委員会
11月 6日	第2回町民会議　【諮問】

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

11月 7日～21日	パブリックコメント
11月25日	【答申】
12月 5日	議会定例会に議案上程
令和8年 1月22日	議会特別委員会
2月12日	議会定例会において議案可決

3．地方創生推進会議（まち・ひと・しごと創生総合戦略）

第２期士幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略（令和２年度～令和６年度）に係る計画の進捗状況の確認と、前年度の事業検証を行うため、士幌町地方創生推進会議を３月１９日付けで書面開催した。

（1）士幌町地方創生推進会議委員（１９人）

任　　期：令和５年４月１日～令和８年３月３１日

委 員 長：髙　木　康　弘

副委員長：窪　田　さと子・亀　野　倫　生

区　　分	氏　　名	
産業経済関係	髙　下　慎　一	
〃	富　田　博　文	
教 育 機 関	窪　田　さと子	
〃	笹　島　香　織	
〃	齋　藤　譲　一	
行 政 機 関	髙　木　康　弘	
〃	亀　野　倫　生	
〃	土　屋　仁　志	
金 融 機 関	石　川　浩　康	令和8年3月5日まで
〃	藤　岡　　崇	令和8年3月6日から
勤 労 団 体	経　種　英　介	令和8年3月5日まで
〃	菅　原　美恵子	令和8年3月6日から
報 道 機 関	吉　田　穣　二	令和8年3月5日まで
〃	道　徳　英　之	令和8年3月6日から
〃	大　　健太郎	令和8年3月5日まで
〃	青　池　　楽	令和8年3月6日から
子 育 て 関 係	松　浪　浩　之	
〃	柴　田　真　稔	令和8年3月5日まで
〃	小野寺　　僚	令和8年3月6日から
青 年 組 織	田　中　芳　明	令和8年3月5日まで
〃	高　士　雄　次	令和8年3月6日から
〃	藤　内　智　也	令和8年3月5日まで
〃	香　川　勇　人	令和8年3月6日から
女 性 組 織	岡　崎　睦　子	
〃	吉　田　こず恵	令和8年3月5日まで
〃	藤　田　由　里	令和8年3月6日から
町 民 代 表	吉　田　静　二	令和8年3月5日まで
〃	篠　原　真　人	令和8年3月6日から

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

４．出会い・結婚支援

（１）若者世代交流事業

若者世代の交流の促進と親睦を深めるとともに、若者世代の異業種交流及び若年層の関係人口創出を図ることを目的として今年度から実施した。

交付者数	交付金額
1組	18,000円

（２）結婚新生活支援事業

婚姻に伴う経済的負担軽減を目的として、新婚世帯の新生活に係る住宅費用及び引越費用の一部を補助する事業だが、令和７年度の実績は無かった。

５．まちづくりの推進

（１）しほろ７０００人のまつり

本町の一大イベントであるこのまつりは、実行委員及び一般公募による代表者９人で企画運営を行い、開催した。

本祭り（日中）

開 催 日　８月１７日
会　　場　コミュニティ広場、タウンプラザ駐車場
参加団体　６８団体
内　　容　お笑い芸人によるステージイベント、売店、トラクター展示　他

仮装盆踊り大会

開 催 日　８月２０日
会　　場　西２線道路（２６号～２７号間）
参加団体　個人・団体参加　２１１人

６．都市との交流推進

都市交流は、都市交流推進委員会が中心となり様々な交流を展開した。

（１）札幌士幌会との交流

平成５年に設立された札幌士幌会は、次のとおり展開した。

・情報の交換　町より広報の送付
・総会　令和７年７月２６日（土）
　札幌市内　会員２０人　来賓３人　町５人
・幹事会　１回

【札幌士幌会会員の状況】　（単位：人）

区分	札幌市	江別市	恵庭市	北広島市	その他	計
男	45	5	4	1	3	58
女	22	2	2	0	2	28
計	67	7	6	1	5	86

（２）美濃市との交流

本町開拓と大変ゆかりの深い岐阜県美濃市とは、平成６年４月に姉妹都市提携が結ばれた。民間を含む相互訪問などにより交流が一層高まった。

士幌町への来町

・７０００人のまつり（８月１７日）美濃市長、美濃市議会議長、美濃市議会事務局長、美濃市総務部総合政策課１人、他３人

（３）美濃市物産展の開催

令和７年１１月８～９日に行われた美濃市総合フェアにおいて、士幌町の特産品の販売、試食、ＰＲとともに現地関係者及び住民と交流を行った。

①従事者

女性連２人、農民協１人、農協青年部１人、青年会１人、町担当２人

②販売状況

販売品目～馬鈴薯、中力粉、ポテトチップスほか

販売金額　Ａ　３，４５９，０２２円
仕入金額　Ｂ　３，２７２，８６２円
経費額　Ｃ　３１７，１６２円
差引利益額　Ｄ＝Ａ－（Ｂ＋Ｃ）　－１３１，００２円

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

７．チセ・フレップ利用状況

士幌小屋「チセ・フレップ」が昭和５３年建設以来４６年目を迎えた。

利用状況　　（　）前年度

区　　分	利用期間	利用人数
夏　　期	5月～10月	136(261)
冬　　期	11月～ 4月	98(155)
計		234(416)

８．移住促進

（１）移住体験住宅事業

①平成２５年度に下居辺地区へ整備した移住体験住宅「オリベ」には、１９組４２人が訪れ延べ４９７日間滞在した。

②平成２９年度に旧下居辺保育所跡地へ整備した「農園付き住宅」については、２世帯４人が入居し、町内での生活を実践した。

（２）移住相談・ＰＲ事業

オンラインによる相談体制を整備するとともに、一元的な窓口での移住相談を実施したほか、首都圏等で開催される移住ＰＲ相談フェアへ出展した。

・北海道移住相談会２０２５（大阪府　６月２１日）相談１５組
・北海道移住・交流フェア２０２５（福岡県　９月６日）相談１０組
・ふるさと回帰フェア２０２５（東京都　９月２０～２１日）相談３２組
・北海道移住・交流フェア２０２５（大阪府　９月２６～２７日）相談３１組
・北海道移住・交流フェア２０２５（東京都　１０月１７～１８日）相談２８組
・オンライン相談１件

９．士幌町発祥の地中士幌太陽光発電所

本施設は、平成２５年度に再生可能エネルギーの地産地消、地場産業の育成、活性化を目的として建設した。なお、本施設は株式会社ベリオーレに貸し付けており、管理を委託している。売電収入に関しては、売電事業者である同社の収入となっている。

（１）設置場所　士幌町字中士幌幹線１０２番地３他
（２）発電出力　９８８ｋＷｈ

１０．士幌町活き生きまちづくり基金

太陽光発電施設貸付料を財源としてまちづくり事業費に充てるため、平成２５年度に士幌町活き生きまちづくり基金を設置した。

令和７年度末基金残高　１１，４１４，２４７円

１１．地域協力活動（地域おこし協力隊）

都市地域から住民票を異動し、生活の拠点を移した地域おこし協力隊により特産品開発、販売促進、地域ＰＲ・情報発信などを通じて地域活性化を図った。

（隊員の状況）

転出地	任用期間	活動業務	備考
北海道	R01/06～R04/05	国際協力･人材育成コンシェルジュ	R04/05 退任
奈良県	R02/09～R07/03	㈱CheerS､ベリオーレ管理運営支援	R07/03 退任
兵庫県	R03/04～R06/03	観光協会事業支援、地域活性化等	R06/01 退任
東京都	R03/04～R04/03	障がい者福祉推進	R04/02 退任
千葉県	R04/04～R07/03	ふるさと納税業務	R07/03 退任
東京都	R05/10～R08/09	まちづくり推進業務	
大阪府	R07/01～R09/12	観光資源活用事業支援員	
大阪府	R07/04～R10/03	有害鳥獣対策協力隊員	

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

（活動の概要）
・地域イベント（祭り、農畜産関係行事）への運営支援
・特産品のＰＲ支援（フェアへの出店・運営）
・道の駅などの観光施設運営支援、新商品とサービスの開発
・士幌町の観光資源開発
・士幌町の新たな魅力創出とインターネット・ＳＮＳを活用した情報発信
・士幌町への移住・定住促進
・有害鳥獣対策

１２．士幌町空家等対策

地域住民の生命、身体及び財産を保護し、安全かつ安心して暮らすことのできる生活環境を確保するとともに、地域活性化のため空家等の利活用を促進することを目的に、「士幌町空家等対策協議会」を設置、士幌町空家等対策計画に基づき対策を推進した。

町内の空き家に関する適正な管理のため、管理不全空家等及び特定空家等の判断基準の設定に向け、空家等対策協議会を８月２６日及び１２月１２日に開催した。

（１） 士幌町空家等対策協議会委員構成（８人）

（任期：令和７年４月１日～令和９年３月３１日）

氏　　名	分野	職種等	備考
髙木　康弘		町長	
松浦　　護	法務	弁護士	
髙橋　英樹	関係機関	釧路地方法務局帯広支局長	
髙下　慎一	不動産	商工会事務局長	
佐藤　弘夫	地域福祉	社会福祉協議会理事長	
西潟　勝幸	住民代表	町民会議副議長	
鈴木　晶之	警察関係者	士幌警察署長	令和7年12月11日まで
丸橋　和寿	警察関係者	士幌警察署長	令和7年12月12日から
末長　秀雄	消防関係者	消防団長	

（２）空家等の利活用状況

令和５年度空家等実態調査により１４０件が空き家と推定され管理状態を判定している。ホームページによる情報提供の他、使い道が定まっていないとされる空き家の所有者６５件に対し、固定資産税納入通知書に当該空き家の現況を示した通知文や助成金のチラシを同封することで、空き家を適切に管理するよう啓発した。

また、協議会において、管理不全空家等及び特定空家等の判断・措置フロー設定し、管理不全空家等として３件の空き家を認定し、所有者へ通知した。

１３．旧小学校施設等利活用推進事業

閉校した小学校の校舎等において、地域及び地域経済の活性化を図るために企業等がその利活用を行う場合、それを奨励するために最大５００万円の補助金を交付するものであるが、令和７年度は、１件の相談があったものの、活用の実績はなかった。

１４．ふるさと寄附（ふるさと納税感謝特典贈呈事業）

町外に在住する個人の方からの寄附（ふるさと寄附）に対して、感謝特典を送付する事業を平成２７年６月１日から開始した。令和７年度においては、感謝特典の充実を図りながら、寄附を募った。

（１）寄附金収入実績（感謝特典贈呈事業分のみ）

	7年度	6年度	5年度	4年度
寄附金額（円）	536,018,100	499,986,500	515,339,000	505,928,000

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

（２）事業区分別収入実績

事業区分	件数	金額（千円）
協働のまちづくりに係る基盤づくりに関する事業 （公共施設等の整備・充実）	13,870	202,536
新しい時代を担うひとづくりに関する事業 （教育振興・青少年育成）	1,790	27,109
スポーツ・文化を育む地域づくりに関する事業 （スポーツ・文化の振興）	696	11,756
子どもを育てやすい環境づくりに関する事業 （子育て推進）	9,056	135,030
みんなで支えあう福祉のまちづくりに関する事業 （各種福祉事業の推進）	1,356	23,332
賑わいや活力を創りだすまちづくりに関する事業 （産業の振興）	1,250	18,787
安全で安心できるまちづくりに関する事業 （地域生活の安定）	1,611	22,318
環境にやさしいまちづくりに関する事業 （環境）	2,596	36,829
その他まちづくりのために必要な事業	4,114	58,321
合　　計	36,339	536,018

（３）令和７年度寄附金活用実績（令和６年度までの寄附を活用）

事業区分	主な活用内容	金額 （千円）
協働のまちづくりに係る基盤づくりに関する事業	認定こども園移転新築工事	315,190
新しい時代を担うひとづくりに関する事業	各種検定受験料助成金、都市小学校交流活動助成金、指導用図書購入、全国・全道競技大会参加助成金、各種大会参加助成金、農業マーケティング実践学習委託料、農業先進技術活用実践学習委託料	13,057
スポーツ・文化を育む地域づくりに関する事業	日本文化体験事業委託料、文化交流学生派遣事業負担金、文化協会助成金、スポーツ少年団活動助成金、各競技大会派遣助成金、交通公園旧駅舎等保護管理委託料	8,825
子どもを育てやすい環境づくりに関する事業	認定こども園給食賄委託料、施設備品購入費、在宅子育て世帯応援事業報償費、子ども食堂支援事業助成金、子育て支援祝い金、子ども医療費、施設備品購入費、こども発達相談センター移転新築工事、妊婦健診委託料	116,484
みんなで支えあう福祉のまちづくりに関する事業	安心安全づくり事業委託料、地域福祉活動実践事業補助金、高齢者福祉関係事業用報償費、高齢者冬期就労対策事業委託料、高齢者等熱中症対策エアコン購入費助成金、福祉施設熱中症対策エアコン設置助成金	24,663
賑わいや活力を創りだすまちづくりに関する事業	農業振興対策本部助成金、乳牛検定事業活動助成金、酪農ヘルパー事業助成金、家畜損害防止事業助成金、商工業活性化推進事業助成金、住宅リフォーム費用助成事業補助金	24,630
安全で安心できるまちづくりに関する事業	コミュニティバス運行委託料、地域交通事業	4,512

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

環境にやさしいまちづくりに関する事業	町有林管理事業（工事請負費）、花のまちづくり助成金、リサイクル推進事業報償費、合併処理浄化槽設置事業助成金、生ごみ堆肥化容器購入費助成金	6,460
その他まちづくりのために必要な事業	移住促進事業補助金、無料入湯券取扱報償費、給食費無償化事業（賄材料費）	36,179
合　　計		550,000

１５．企業版ふるさと納税

国が認定した地方公共団体が行う地方創生の取組に対して行う寄附を、「第３期士幌町まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる４つの基本目標に基づく取組を対象に、令和４年４月より企業版ふるさと納税として募集を開始した。

（１）事業区分別実績

事業区分	法人件数	金額(千円)
地域産業の活性化により、多様な雇用を創出する事業（士幌高校魅力化プロジェクト等）	0	0
人の流れを増やし、住環境を充実させ、移住・定住を促す事業（道の駅しほろ温泉プラザ緑風リニューアル、道の駅ピア２１しほろ公園整備プロジェクト等）	0	0
結婚・出産・子育てへの支援を充実させる事業（認定こども園整備改築事業等）	0	0
安心して住み続けることができる地域をつくる事業（ゼロカーボンシティ達成に向けた再エネ導入促進事業）	5	8,200
合　　計	5	8,200

（２）寄附法人名

・北王コンサルタント株式会社
・株式会社奥原商会
・フロンティアサポート合同会社
・株式会社安井測量設計事務所
・ホクレン農業協同組合連合会

１６．物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金

令和５年１１月に、エネルギー・食料品価格の物価高騰の影響を受けた生活者や事業者の支援を通じた地方創生を図るため、「デフレ完全脱却のための総合経済対策」への対応として、地方公共団体が地域の実情に応じてきめ細やかに必要な事業を実施できるよう創設され、以下のとおり事業を実施した。

（１）事業費、交付金額（令和７年度分）

・事業費（歳出）　９２，９２６，８０８円
　（繰越明許）　９，２８３，８２８円
・財　源（歳入）
　重点支援地方交付金　８８，５１５，５６８円
　重点支援地方交付金（繰越明許）　７，０８４，９０７円
　（不足分は一般財源等より支出）

１７．奨学金返還支援

奨学金の貸与を受けて大学等を卒業し、士幌町内に居住して働いている方を対象に、前年度に返還した奨学金の額を補助した。

交付者数	交付金額
7人	830,000円

<table>
<tr><th>項　　目</th><th>主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績</th></tr>
<tr><td></td><td>１８．地上デジタル放送ＧＦ機器設備更新
　地上デジタルテレビ放送における難視聴地域解消のため、２０１０年に設置された本設備は、設計耐用年数とされる１０年程度を経過していることから、機器の突然の故障に備え、更新を実施した。
　２９，１５０，０００円</td></tr>
<tr><td>18. 環境対策費</td><td>１．環境審議会
　環境の保全に関する基本的事項を調査審議するため、士幌町環境基本条例に基づき環境審議会を設置している。
　士幌町環境基本計画（計画期間：平成３０年度～令和９年度）の事業検証と環境マネジメントシステムの内部監査に係る協議を行った。
（１）士幌町環境審議会委員構成（６人）
（任期：令和６年４月１日～令和８年３月３１日）
<table>
<tr><th>氏　　名</th><th>所　　属</th></tr>
<tr><td>東　村　達　夫</td><td>町民代表</td></tr>
<tr><td>室　本　敏　行</td><td>町民代表</td></tr>
<tr><td>大　西　廉　子</td><td>女性団体連絡協議会</td></tr>
<tr><td>佐　藤　弘　夫</td><td>士幌町グリーンツーリズムネットワーク</td></tr>
<tr><td>上　山　歩　夢</td><td>士幌町青年会</td></tr>
<tr><td>貝　澤　幸　子</td><td>しほろ花遊びの会</td></tr>
</table>
２．士幌町ゼロカーボンシティ推進協議会
　本町における２０５０年までのカーボンニュートラルの実現に向けて、関係者が目指す姿を共有し、連携・協働しながら、その推進及びその他脱炭素によるまちづくり等について協議するため、士幌町ゼロカーボンシティ推進協議会を設置している。
　令和６年度に改定した士幌町地球温暖化対策推進計画の取組経過及び今後の進捗管理に係る協議を行った。
（１）士幌町ゼロカーボンシティ推進協議会委員
（任期：令和７年４月１日～令和１０年３月３１日）
<table>
<tr><th>区分</th><th>部門等</th><th>所属・氏名</th></tr>
<tr><td rowspan="8">協議会委員</td><td>行政部門</td><td>士幌町長　髙木　康弘</td></tr>
<tr><td>農業部門</td><td>士幌町農業協同組合代表理事組合長　國井　浩樹</td></tr>
<tr><td>商工部門</td><td>士幌町商工会会長　杉原　勝人</td></tr>
<tr><td>環境部門
町民代表</td><td>士幌町環境審議会委員
士幌町町民会議副議長　大西　廉子</td></tr>
<tr><td>金融部門</td><td>帯広信用金庫士幌支店長　藤岡　崇</td></tr>
<tr><td>交通部門</td><td>有限会社士幌ハイヤー代表取締役　石垣　好典</td></tr>
<tr><td>有識者</td><td>NPO法人環境自治体会議環境政策研究所所長　中口　毅博</td></tr>
<tr><td>町民代表</td><td>合同会社SunVillage　服部　茉矢</td></tr>
<tr><td rowspan="5">オブザーバー</td><td rowspan="5"></td><td>環境省北海道地方環境事務所地域脱炭素創生室長　西野　雄一</td></tr>
<tr><td>十勝総合振興局保健環境部くらし・子育て担当部長　堀井　勉</td></tr>
<tr><td>北海道電力株式会社道東支社ビジネスソリューショングループ　樋口　譲</td></tr>
<tr><td>士幌町農業協同組合常務理事　久保　武美</td></tr>
<tr><td>ホクレンくみあい飼料株式会社十勝工場　石井　鉄郎</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

（２）士幌町ゼロカーボンシティ推進協議会開催実績

会議名	開催日
第1回士幌町ゼロカーボンシティ推進協議会	令和7年10月 9日

３．快適環境づくり

しほろ花遊びの会と協働で役場南側花壇の整備を行ったほか、花のまちづくりの推進を目的として、各種講習会等を実施した。

実施事業　（単位：千円）

事業名	内　容	事業費
ガーデニング講習会	6月22日	30
ガーデニング研修会	12月 2日	0
役場南側花壇植栽	花壇の植栽	39

４．環境マネジメントシステム

地球規模に拡大した環境問題に対して、環境負荷軽減に取り組み、政策やあらゆる分野に環境への配慮を取り入れた環境自治体を目指して、環境マネジメントシステムとしてＮＰＯ法人環境自治体会議環境政策研究所が開発したＬＡＳ－Ｅ（ラス・イー：ローカル・オーソリティズ・スタンダード・イン・エンバイロメント）を平成１７年７月から運用開始し、令和５年度よりゼロカーボン施策と連動した独自システムによる運用を開始した。

環境政策推進本部（本部長＝町長、構成員管理職以上）、環境マネージャー会議（各課職員）を設置し、環境審議会による協議を経て令和７年度の数値目標を設定し、庁内における取組を実施した。

（１）取り組み経過

月　　日	取り組み内容
令和7年 5月 29日	第1回環境マネージャー会議
6月 2日	第1回環境政策推進本部会議
6月 20日	第1回環境審議会
12月 17日	第2回環境マネージャー会議

（２）独自目標達成度

温室効果ガス　目標：Ｈ２５年実績　△３６％

燃料種別	使用量		CO_2排出量（kg-CO_2）		目標達成率（%）
	目標値	令和7年度	目標値	令和7年度	
電　　気	1,710,620kWh	2,146,019kWh	1,159,468	1,001,196	115.8
Ｌ Ｐ Ｇ	2,692㎥	2,910㎥	3,900	4,215	92.5
灯　　油	129,676ﾘｯﾄﾙ	164,758ﾘｯﾄﾙ	322,892	410,162	78.7
Ａ 重 油	429,824ﾘｯﾄﾙ	515,400ﾘｯﾄﾙ	1,164,664	1,396,543	83.4
ガソリン	12,375ﾘｯﾄﾙ	11,758ﾘｯﾄﾙ	28,730	27,297	105.3
軽　　油	5,567ﾘｯﾄﾙ	6,164ﾘｯﾄﾙ	14,392	15,934	90.3
合　　計	－	－	2,694,046	2,855,347	94.4

※電気のCO2排出量は太陽光発電自家消費量（２１３，２０８kWh）を差し引いて算出

ノー・マイカーデー　目標：年間　１人１２回（単位：%）

目標値	実施率
100.0	83.9

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

廃棄物排出量　目標：Ｒ３～Ｒ６年平均値　（単位：kg・%）

施設		目標値 a	令和7年度 排出量 b	増減 c=b-a	目標達成率 a/b(%)
役場庁舎・車両センター・福祉センター・総研・病院等 計17施設	可燃	16,920	16,432	△ 488	103.0
	不燃	2,024	2,204	180	91.8
合　計		18,945	18,636	△ 308	101.7

公用車使用燃料　目標：Ｈ２５実績　△３６%

	目標値 a	令和7年度 b	増減 c=b-a	目標達成率 a/b(%)
消費燃料（ﾘｯﾄﾙ）	17,942	17,922	△ 20	100.1

水道使用量　目標：Ｈ２５～近似曲線以下（単位：m^3・%）

目標値 a	令和7年度 b	増減 c=b-a	目標達成率 a/b(%)
35,680	34,828	△852	102.4

５．再エネ・省エネ機器導入

２０５０年ゼロカーボン達成の実現に向け、公共施設への再生可能エネルギー導入と、町民・事業者に対し再生可能エネルギーや省エネルギー機器の導入に係る経費の補助を実施した。

（１）重点対策加速化事業（令和５～９年度）　（単位：円）

項目	件数 (括弧内累積)	CO_2削減量 (t-CO_2/年)	金額
太陽光発電設備	7件（26件）	16.55	3,025,000
定置用蓄電池	5件（21件）		2,536,000
エネルギーマネジメントシステム	1件　(7件)		100,000
高効率給湯器	12件（72件）	31.83	6,075,000
公共施設LED照明導入（国保病院・総合福祉センター）	0件　(1件)	－	－
公共施設ZEB化	2件　(2件)	326.28	－
令和５年度からの累計CO2削減量（t-CO_2/年）		1,003.8	

（２）既設太陽光発電設備用蓄電池導入補助金

項目	件数	金額
既設太陽光発電設備用蓄電池	5件	1,732,000

（３）省エネ家電買換え促進補助

項目	件数	CO_2削減量 (t-CO_2/年)	金額
省エネ家電（冷蔵庫）買換え補助	61件	9.6	5,657,000
令和５年度からの累計CO_2削減量（t-CO_2/年）		65.5	

（４）住宅用高効率設備導入補助金

項目	件数	CO_2削減量 (t-CO_2/年)	金額
高効率給湯器	1件	0.07	90,000
空気清浄機能又は換気機能付きエアコン	0件	－	
令和７年度からの累計CO_2削減量（t-CO_2/年）		0.07	

なお、本事業に実施に当たって、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金４５，０００円の交付を受けている。

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

（５）公共施設への再生可能エネルギー導入

公共施設から率先して再生可能エネルギー等を導入し、脱炭素化への取り組みを地域内へ波及させることを目的として、公共施設に太陽光発電設備をオンサイトPPA方式により導入した。

施設	特別養護老人ホーム	終末処理場	認定こども園	こども発達相談センター
導入年度	令和６年度	令和７年度	令和７年度	令和７年度
太陽光電池（kW）	127.5	41.3	56.64	14.16
蓄電池（kWh）	16.4	－	32.8	16.4
発電(予測)量（kWh）	109,713	(52,400)	(61,560)	(8,960)
CO_2削減(予測)量（t-CO_2/年）	58.37	(28.04)	(32.93)	(4.79)

19. 生活安全推進費

１．交通安全対策・防犯対策

（１）交通安全活動の概要

生活安全推進協議会及び関係団体と連携し、事故防止、交通安全運動啓発などに精力的に取り組んだが、９月に死亡事故が発生し、２名の尊い命が失われた。

各地区こぐまクラブや小学校での交通安全教室等、積極的な活動により交通事故啓発に向けた注意喚起を実施するとともに、広報誌などにより交通安全の啓発を図った。また、各公民館等の協力により生活安全推進協議会役員を通じ、地域での交通安全旗等の掲揚を行い、注意喚起に取り組んだ。

その他、各期別運動期間には、生活安全推進協議会・交通安全指導員及び各関係団体の協力により、主要道路及び農村地区におけるパトライト啓発及び巡回指導を行った。

（２）交通安全運動の状況

通年運動	「子どもと高齢者の安全確保」 「飲酒運転の根絶」 「スピードダウン」 「シートベルトの全席着用」 「居眠り運転の防止」 「自転車の安全利用」 「安全意識の向上」				
期別運動	運動名	春の全国	夏	秋の全国	冬
	実施期間	4／8～4／15	7／14～7／22	9／22～9／30	11／13～11／21
地域職域運動	運動名	街頭啓発旗なみ	ｼｰﾄﾍﾞﾙﾄ着用推進ｷｬﾝﾍﾟｰﾝ旗なみ	町民交通安全宣言	十勝百日作戦
	実施期間	4／8	7／17	8/17	9／1～11／30

特別運動

町民交通安全の日　（毎月１日）
道民交通安全の日　（毎月 15 日）

（　）前年度

交通安全教室及び講話等と啓発協力	回数	延人数
こぐまクラブ	2	163
小学校	4	257
老人クラブ・敬老会	2	200
合　　計	(12) 8	(701) 620

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

（3）防犯対策活動の状況

犯罪のない安全で安心な住みよい町づくりを進めるため、犯罪被害等を未然に防止する対策、事業を展開した。

実施時期	事　　業	場　　所
8月	７０００人のまつり盆踊り終了後の巡回	士幌市街
10月	車のドアロック及び自転車・住宅施錠診断	士幌市街
12月	歳末警戒広報巡回啓発	町内一円

（4）士幌町生活安全推進協議会助成金　１，０００千円

士幌町生活安全推進協議会役員（２１人）

役　職　名	氏　　名	所　　属
会　　長	加　納　利　春	士幌南公民館
副　会　長	長谷川　雅　毅	士幌町建設業協会
〃	吉　田　邦　彦	士幌北公民館
〃	杉　原　勝　人	商工会関係
理　　事	長　田　直　弘	下居辺公民館
〃	堀　江　博　文	中士幌公民館
〃	宗　原　徳　厚	上居辺公民館
〃	文　屋　政　彦	佐倉公民館
〃	西　上　智　之	中音更公民館
〃	水　野　基　樹	西上音更公民館
〃	鈴　木　徹　也	新田公民館
〃	吉　田　静　二	社会教育委員会
〃	小　川　清　美	北町公民館
〃	神　野　則　夫	中町公民館
〃	齊　藤　雅　哉	西町公民館
〃	石　垣　好　典	運輸関係
〃	東　村　達　夫	会長指名推薦
〃	國　島　　昇	〃
監　　事	若　原　　遼	南町公民館
〃	浅　野　幸　子	女性連絡協議会
相　談　役	加　藤　邦　彦	有職者

（5）交通安全指導員協議会助成金　１，０００千円

交通安全指導員の出動状況（出動費８２９千円）

年間出動回数	定例出動		期別・特別運動		その他の指導		計	
	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６	Ｒ７	Ｒ６
延べ	105	96	187	188	18	20	310	304

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

交通安全指導員名簿　　任期２年(令和６年４月１日～令和８年３月３１日まで)

役職名	氏　名	駐在区	役職名	氏　名	駐在区
会　長	原尾　英祐	南　団　地	部会員	土田　覚	中士幌東団地
副会長	神尾　勝文	高　　徳	〃	髙橋　茂	〃
部会員	松井　紀子	中士幌西	〃	森山　亜希子	緑　　光
〃	三木　正美	友　　愛	〃	森山　龍児	〃
〃	武藤　真由美	い　こ　い	〃	石川　尚代	中士幌西
〃	北嶋　克章	新　　生	〃	中村　いずみ	睦　　西
〃	戸田　美鈴	緑　　光			

（６）負担金

・帯広地区暴力追放運動推進協議会負担金　　５０，０００円
・十勝地区交通安全指導員連絡協議会負担金　　９，５００円

（７）運転免許証返納窓口

手続きの負担軽減のため、帯広警察署のご協力の下、臨時窓口を３回開設。
１２名が手続きを行った。

（８）町内交通事故発生状況（帯広警察署発表）

区分／年度	物損事故件数	人身事故件数	負傷者数	死亡者数
7	138	9	2	9
6	96	6	4	3
5	110	6	6	0
4	103	6	5	2
3	107	3	3	0

（９）町内窃盗犯等件数（帯広警察署発表）　　（単位：件）

区分／年度	凶悪犯		窃盗犯													知能犯	粗暴犯	その他刑法犯
			侵入盗				非侵入盗											
	殺人	強姦	空き巣	忍込み	建造物侵入	その他	万引き	乗物盗	自転車盗	車上狙い	部品狙い	脱衣場狙い	置引き	かっぱらい等	その他	詐欺	暴行	
7	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	2	2
6	0	0	6	1	0	0	1	0	0	2	1	0	0	0	2	1	1	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0
4	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0
3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0

２．消費者行政の活動

（１）消費生活相談

平成２３年度から音更町消費生活相談センターにおいて士幌町民の相談業務の委託を広域連携で行っており、相談業務体制の充実が図られた。また、委託経費については音更町との協定により、相談件数等を算定し負担している。

・消費生活相談広域化負担金　５５５，２１２円

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績

相談件数（士幌町分）　（単位：件）

年度	士幌町					音更町消費生活相談ｾﾝﾀｰ				
	7	6	5	4	3	7	6	5	4	3
問い合わせ	2	0	3	4	0	1	1	0	4	3
他機関紹介	3	6	5	0	0	0	0	0	1	0
助言(自主交渉含)	0	0	0	0	0	5	12	7	10	4
斡旋解決	0	1	0	0	0	1	2	2	3	2
斡旋不調	0	0	0	0	0	0	5	0	1	0
処理不能	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他情報提供	1	0	0	0	0	4	0	3	4	6
処理不要	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総数	6	7	8	4	0	11	20	12	23	15

・釧路弁護士会等による無料法律相談会の開催（年３回）
・広報等にて啓発活動を実施

20.情報管理費

１．電子計算機器関係

（１）グループウエアシステム

基幹システムの更新により庁内ＬＡＮを構築したことから、庁内ＬＡＮを有効活用するため平成２２年１１月にグループウエアシステムを更新している。

提供しているサービスは、メール、掲示板、スケジュール管理、ファイル共有等となっている。令和４年１２月に機器を更新した。

（２）例規データベースシステム

平成１２年１２月に例規データベースシステムを導入したが、機器の老朽化により外部のサーバーをレンタルしてサービスを受けるホスティング方式へ変更し、例規検索システムを更新している。

（３）行政情報ネットワークシステム

役場本庁舎と出先機関（総合福祉センターなど）及び各小中高等学校を結ぶ広域的なネットワークを構築し、そのネットワークをインターネットに接続している。

（４）総合行政情報システム（ＬＧＷＡＮ）

国のＩＴ戦略に基づく電子自治体実現を目標として、都道府県及び市町村が共同で運用するネットワークシステムに、本町も平成１５年度から接続環境を構築したが、国の整備拡充に伴い第五次ＬＧＷＡＮ整備事業として令和７年度に機器を更新した。

（５）公的個人認証サービスシステム

インターネットを介して様々な行政手続きを行う際に、本人確認及び認証をするために必要な処理（ＩＣカードに情報を記録～住民基本台帳カード及びマイナンバーカードが利用可能）を行うシステムである。平成１５年１２月に整備し、機器の老朽化により平成２３年３月にシステムを更新している。

（６）図書館システム

図書館業務の事務効率化を図るために平成１１年１１月より電算化した。維持費の軽減を図るため、平成２５年１０月の機器更新の際にクラウド指向システムへ移行している。

（７）自治体クラウド事業

今まで活用していた情報システム包括アウトソーシング事業の先進的な事業として自治体クラウド事業を平成２４年４月から開始している。電算業務事業の大幅なコスト削減、長期間の利用保証及び万全なセキュリティ対策の維持が図られた。

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績
	①基幹業務システム 住民記録システム、外国人登録システム、印鑑登録システム、国民年金システム、国民健康保険システム、入学通知システム、選挙システム、住登外・宛名システム、住民税システム、軽自動車税システム、固定資産税システム、収納システム、児童手当システム、介護保険システム、障害者福祉システム、保育所保育料システム、後期高齢者医療システム、法人住民税システム、滞納管理システム。 ②住民基本台帳ネットワークシステム 平成１４年８月から稼働している住民基本台帳ネットワークシステム（以下「住基ネット」という。）の運用を行っている。 住基ネットの住民記録システム（基幹業務システム）との連携方式については、回線接続方式で行っている。 ③職員総合情報システム 給与計算、人事管理を総合的に行う職員総合システムを平成１４年１月に導入し、運用している。 ④財務会計システム 歳入歳出執行管理を行うシステムとして稼働しているが、システムの更新を行い、出先機関に財務会計システム用通信回線を整備している。 ⑤健康管理システム 住民の健康管理を行うシステムとして稼働しているが、平成２４年９月に新システムへ更新している。 ⑥業務委託料 自治体クラウド事業　　２３，３４８，１６０円 （８）北海道自治体セキュリティクラウド 庁内インターネットセキュリティ対策として、平成２９年６月より北海道が運用するクラウド型情報セキュリティシステムを経由したインターネット接続に切り替えを行った。 （９）人事評価システム 人事評価を効率的に行うことを目的として導入を開始した。令和５年度はシステム構築を実施、令和６年度から本格稼働した。 システム利用料　　４９９，９４４円 （１０）庶務管理システム 職員が行う各種届出（年末調整、通勤届、扶養親族届等）及び、給与明細書の発行を電子化するため、令和４年１２月にシステムを導入した。令和６年６月からは勤怠管理を導入し、タイムカード・休暇申請などをオンライン化した。 システム利用料　　３，９２８，３２０円 （１１）自治体専用チャット（ＬｏＧｏチャット） 業務における職員間の連絡、情報共有の手段として、チャットツールを導入し、令和６年５月から本格稼働した。 システム利用料　　１，３２０，０００円 （１２）仮想ブラウザ（ＲｅｖｏＷｏｒｋｓ） セキュリティの強靭化を図ることを目的にネットワークの構成を大幅に変更、仮想ブラウザ（ＲｅｖｏＷｏｒｋｓ）を導入し、令和７年２月から本格稼働した。 システム利用料　　６，９７３，４２８円 （１３）窓口入力支援システム（書かない窓口） 住民窓口において、これまで手書きしていた申請書類を身分証明書の情報を機器に読み込ませることにより自動で転記できるシステムを令和７年２月に導入した。 （１４）自治体情報システムの標準化・共通化 デジタル庁より各自治体の業務を統一化する施策が打ち出され、人的・財政的な負担の軽減を図り、自治体の職員が住民への直接的なサービス提供や地域の実情を踏まえた企画立案業務などに注力できるようにするとともに、オンライン申請等を全国に普及させるためのデジタル化の基盤を構築した。

項　　目	主 要 施 策 ・ 成 果 ・ 予 算 執 行 実 績
	なお、本事業の実施に当たって、デジタル基盤改革支援補助金１３１，１４８，０００円（令和７年度　９９，９３０，０００円　令和６年度　３１，２１８，０００円）の交付を受けている。 令和６年度標準化事業　３１，２１８，０００円 令和７年度標準化事業　１０２，２４５，０８１円 合　計　１３３，４６３，０８１円 （１５）デジタル郵便サービス（ＳｍａｒｔＰＯＳＴ） マイナンバーカードとスマートフォンを利用し、これまで郵送していた通知等の文書をデジタルに置き換えるシステムを令和８年２月に導入した。 なお、本事業の実施に当たって、新しい地方経済・生活環境創生交付金１，１２７，０００円の交付を受けている。 システム導入費（3か年分）　２，２５５，０００円
21. 地域生活交通確保対策事業費	１．運行費補助 生活交通路線に指定されている下表の運行系統に対して、地域生活交通路線維持費補助金交付要綱により以下の補助を行った。 （単位：千円）

バス事業者	運行系統	補助対象経費	士幌町補助金
十勝バス	上士幌線	31,166	10,144
	ぬかびら線	24,377	4,456
拓殖バス	上士幌線	5,835	2,328
	音上線	8,903	3,227
合計		70,281	20,155

２．施設保守管理
代替バス転換に伴う代替施設として建設した士幌バス待合所、中士幌バス待合所及び交通公園の管理を行った。
保守管理等経費　１，２３７，２３８円
交通公園旧駅舎等保護管理委託料　４７３，０００円

３．国鉄士幌線代替輸送確保基金の状況
基金利息６１，６８４円を運行費補助及び施設保守管理経費に充当し、不足分２１，２２０，１１５円を基金から繰入れた。

内　　訳	金額（円）
令和６年度末基金残高　A	49,347,798
令和７年度基金繰入額　B	21,220,115
令和７年度末基金残高　C＝A－B	28,127,683

４．コミュニティバスの運行
住民の通院や買い物弱者等の移動を支援するため、コミュニティバスの通年運行（土日祝祭日・年末年始を除く）を行った。

実施時期	運行日数	延べ乗客数	1日当たり乗客数	1日の運行便数	経　費
通年	242日	6,890人	28.5人	市街北廻り5便 市街南廻り5便	7,867,640円

５．公共交通の再編
「士幌町地域公共交通活性化協議会」を設置し、町内の公共交通再編に向けた協議を実施した。協議会は、７月１７日及び１２月１７日に開催し、令和８年度に実施するＡＩデマンド交通の実証運行に向けた協議などを行った。